

令和3年度 学校評価報告書

園名	三田幼稚園
----	-------

1 教育目標

「げんきな子 考える子 やさしい子」
 ・活動を楽しみ、自己を発揮できる幼児を育てる
 ・自分なりの目当てをもって、粘り強くやりぬく幼児を育てる
 ・思いを伝えあい、相手を受け入れられる幼児を育てる
 (八景中学校区共通目標)
 人も自分も学校(園)もふるさと大切にする子
 ～自分を大切にでき、自分のことは自分でしようとする子～

2 今年度の重点目標

「夢中になって 遊び込む子の育成」
 ～子どもの心の動きを見取り、向き合う援助の在り方を探る～

3 総合的な自己評価

子どもの主体性を大切にされた保育活動の工夫や遊びを創り出す姿を支え、園の教育目標をめざして、教育・保育実践に取り組んだ。『げんきもりもり』『心わくわく』を合言葉に、子ども達が同年齢や異年齢の友達とかかわり、幼稚園での活動を存分に楽しみ、さらに意欲をもって遊びや生活を進めることが出来るよう努めたことで、子ども達の協同性や他者への思いやり、自己肯定感など、様々な学びに向かう力(非認知能力)を育むことに繋がっている。このような子どもの心の育ちを園の取り組みと合わせて保護者や地域へも発信し、理解と関心を得ることが大切である。今後も、保護者や地域の方々の協力を得ながら、多様な体験の工夫、安心・安全な園環境などに努め、保育の充実を図っていききたい。

4 総合的な学校関係者評価

園の教育目標のもと、子ども達の「やってみよう」と思う主体的な気持ちを大切に、保育・教育活動を工夫し、一人一人の子どもに寄り添った丁寧な関わりに取り組みされたことが、子どもの成長の姿とともに園だよりや掲示板等の情報発信でよく分かる。また、同年齢、異年齢とのかかわりの中で、一人一人の成長はもとより共に成長していくことで、相手を思いやる心をもつことが出来たのではないかと。芝生園庭を活かして、健やかな体づくりや心豊かなやさしい子が育つ温かい学びの環境づくりに今後も努めていただきたい。また、地域の未就園児家庭に対して、保育活動の取り組み等の情報発信や遊び場づくりの工夫に努め、園の教育内容を広めていただきたい。

5 評価結果

自己評価		学校関係者評価		
分野・領域	評価項目(取組内容)	評価結果及び分析	改善の方策	学校関係者評価委員会の意見
教育課程	幼児が身近な環境に主体的にかかわり、自らの興味関心を広げ、学びに向かう力を豊かに育む保育内容の充実 ・心の安定を図り、園生活を楽しみながら自己発揮できる居場所づくりや幼児理解に基づく援助に努める ・好奇心や探究心を働かせ、遊びや生活の中で目標をもったり存分に楽しんだりして、夢中になって遊び込める環境や体験の工夫 ・共に育ち合える3歳児4歳児5歳児のかかわりの工夫	子ども達が園生活を楽しみ主体的に活動することで、様々な育ちにつながっていると感じることができた。 3学年がかかわり合える機会を工夫し、共に育ち合える保育実践に努めたことで、互恵性のある育ちの実感が得られた。	これまでの取り組みで培ってきた園の文化を大切に、さらに一人一人が自己を発揮し、学びに向かう力を豊かに育む保育内容の充実をむけて、取り組みを進める。 3歳から5歳の3年間の育ちと学びを積み重ね保障していく。	園生活を楽しんでいる子どもの姿、異年齢のかかわりなどから成長が感じられる。好奇心や探求心を働かせ、主体的に存分に遊び込むことで沢山の学びを得ていると感じる。また、子どもは褒めることで意欲的になったり自信をつけたりする。学びに向かう力を育むことが大切である。今後も継続した取り組みを期待したい。
	健やかな心と体をつくる取り組みの工夫 ・「わくわく体操」を基盤とした体づくりの推進 ・芝生園庭を活かした動きの場づくりの工夫	戸外遊びやわくわく体操などを通して、子どもの体づくりや「やってみよう」とする気持ちを伸ばすことが出来た。	年間を通して体づくりへの取り組みを工夫すると共に、保護者に対してもその具体や子どもの育ち、意義などを発信する。	裸足で行う「わくわく体操」は、異年齢で教えたり見せ合ったりする等、自信をもつことが出来る機会でもある。今後も体づくりの工夫と共に充実した取り組みを期待したい。
保護者・地域住民との連携	園やふるさとを大切にする豊かな心の育成 ・園の取り組みや子どもの育ちの情報発信の工夫 ・家庭、地域との信頼関係の構築 ・地域と連携した体験活動の工夫、様々な交流・連携の推進	情報発信の工夫により、わかりやすく伝えることが出来た。地域住民との連携については、限られた活動ではあったが、保護者にもきめ細かく伝えたことで理解を得ることが出来た。	情報発信については、園の取り組みと共に、子どもの育ちなど視点をもつて見ていただけるように働きかけを行っていききたい。地域住民との連携については、つながりを深められるよう引き続きアプローチしていく。	園の様子を毎日の降園時や写真などで情報発信されており、分かりやすく保護者も興味もてる。園の雰囲気や積極的に発信する工夫に努めていただきたい。
保幼小中連携	小学校教育との円滑な接続の取り組みの推進 ・小学校区の保幼小間での様々な交流機会を工夫し、就学への期待を高める ・保幼小の教職員間の接続を意識した連携の推進	コロナ禍もあり交流回数を重ねることは出来なかったが、連携方法の工夫をしながら取り組んだことで、就学への期待感を少しでも高めることが出来た。	八景中学校区共通の就学前から15歳(義務教育の終わり)までの育ちと学びをつなぐ視点を異校種間で共有し、教師間の連携、子ども同士の交流の充実をめざしていく。	コロナ禍で交流が難しい状況の中ではあったと思うが、少しでも学校の楽しさが伝わると園児達も不安なく進学できるのではないだろうか。就学前から15歳までの育ちを見通した連携の充実にも今後取り組んでいただきたい。
子育て支援	親同士、子ども同士の交流の場としての役割や機能の充実 ・安心して集える場づくりや仲間づくりと情報発信の工夫 ・子育て相談の実施	園児とその親子については、降園後の遊び時間や園庭開放の機会等を設け、場づくりをしてきた。	未就園児親子に繋がり場の場づくりの工夫とともに、子育て相談などの支援も充実させていきたい。	未就園児をもつ家庭に対して、幼稚園の保育活動や良さをどんどんアピールする工夫をしていただきたい。親子が集える場の提供を広めていくことも検討願いたい。